

# 投手と打者の二刀流やり遂げた大谷選手

## 投打5部門で「100」以上は史上初



オールスター、先発で力投する大谷投手(7月13日) AFP時事

米大リーグのロサンゼルス・エンゼルスで、投手と打者の「二刀流」で活躍した大谷翔平選手。2021年シーズンは3日に終了し、投打の5部門で「100」を超える成績を残した。これは「クインティプル(5つの100)」と呼ばれ、大リーグの歴史で投打複数の部門での5つは史上初めてのことだ。

3日のシーズン最終戦、シアトル・マリナーズを相手に大谷選手は第1打席で46号本塁打を打ち、投打で活躍したシーズンを締めくくった。この試合で日本選手では07年の松井秀喜さん(ニューヨーク・ヤンキース)以来となる100打点に達した。

シーズン162試合のうち、大谷選手は投手と野手で計158試合に出場し、打者としては100打点のほか、103得点、138安打の数字を積み上げ、投手としては130回3分の1を投げ、156三振を奪った。26盗塁、96四球もリーグトップクラスの数字だ。

大谷選手は長いシーズンを終え、「大きなけががなく、出続けられたのはよかった。(今年のシーズンオフに)トレーニングをもっとハードにしたい。まだまだ上に行けると思っている。(来年は)今年以上のパフォーマンスを出せるようにしたい」とさらなる活躍を誓った。

シーズンを通して投打に活躍したのは、ベープ・ルース(ヤンキース)以来100年ぶり。目を見張る二刀流の活躍で、シーズン最優秀選手(MVP)の有力候補に名前が挙がっている。



マリナーズ戦の1回、46号先頭打者本塁打を放つ大谷選手(3日)

# 45回優勝の横綱白鵬が引退

## ほとんど塗り替えた1位記録

大相撲で数々の1位記録をつくった横綱の白鵬が9月27日、現役引退を日本相撲協会に申し出て20年間の土俵生活から去ることになった。

1985年3月11日にモンゴルで生まれ、15歳で来日。2001年3月の春場所、初土俵を踏んだ。入門当時の体重は60キロそこそこ。地道なけいこを日々繰り返し、体も大きくなり、07年5月の夏場所後に22歳で69人目の横綱に昇進した。

勝を果たした。優勝45回、全勝優勝16回、通算1187勝、幕内1093勝、横綱での勝利899勝、横綱在位84場所、年間最多勝10回など、1位記録をほとんど塗り替えた。



45回目の優勝を果たし、賜杯を手に笑顔の白鵬(代表撮影)

# 高校生の藤波選手が女子53キロ級優勝

## 松井選手はグレコで日本勢最年少優勝

6日にノルウェーのオスロで行われたレスリングの世界選手権女子53キロ級で、高校3年の藤波朱理選手が1回戦から決勝までの4試合で圧倒的な強さを見せて優勝した。3年後のパリ五輪に向け、さらなる成長が期待される。

また、8日の男子グレコローマンスタイル(上半身の攻撃・防衛のみで戦う種目)55キロ級では松井謙選手が優勝。松井選手は20歳8カ月で、グレコローマン勢で最年少での優勝となった。



女子53キロ級で優勝し、日の丸をまとう藤波選手 EPA時事

# スポーツ観戦での「コロナ対策実験始まる」

## 「ワクチン・検査パッケージ」のチケット販売

6日に愛知県の豊田スタジアムで行われたJリーグのルヴァンカップ準決勝第1戦、名古屋FC東京の試合で、新型コロナウイルス対策としてスポーツイベントの入場制限を緩和するための実証実験が実施された。

試合を観戦したJリーグの村井満チエアマンは「おそらく(日本の)スポーツ界では初の試み。想定に近い形で終えることができた」と話した。ウィルスのワクチンを2回接種した人やウイルス検査で陰性だった人を対象にした「ワクチン・検査パッケージ」と呼ばれるチケット1800席が用意され、730席が売れた。

観戦者は専用の窓口で接種証明書か陰性証明書などを提示してチケットを買い、専用の席で観戦した。感染状況の影響をあまり受けずに販売できる「ワクチン・検査パッケージ」のチケットは、すでに欧米では導入が始まっている。Jリーグやプロ野球でも人数制限された観客数に加えてチケットを販売できる手段として注目されていた。



新型コロナウイルスワクチン接種済み証明アプリの画面

# 年間262本の大リーグ最多安打を樹立

## イチロー選手、2度目の首位打者にも輝く

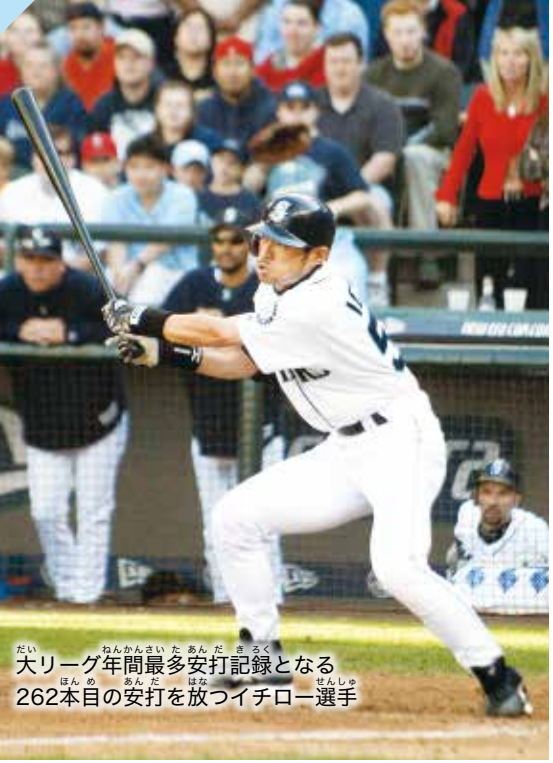


2004年10月

過去の名シーンを振り返ります

2019年に現役引退し、米大リーグで数々の記録を打ち立てたイチロー選手にとっても、2004年のシーズンは特別なものだった。ジョージ・シスラー選手が1920年につけた年間257安打の大リーグ記録を84年ぶりに更新する262安打をマークした。この記録を塗り替える選手は今後いないだろうといわれるほど偉大な記録だ。

シアトル・マリナーズに所属していたイチロー選手は、打率でも両リーグ最高の3割7分2厘を残し、3年ぶり2度目のア・リーグ首位



大リーグ年間最多安打記録となる262本目の安打を放つイチロー選手

イチロー選手は「あり得ないことをしてしまっただけ。162試合すべてに1本(安打)を打ち、さらに、そのうちの100試合は2本の安打が必要となる。これまで探り続けてきたものがようやく来てくれたか、という気がする」と、大記録樹立の感想を語った。

大リーグ1年目の01年にいきなり首位打者となり、ア・リーグの最優秀選手(MVP)と最優秀新人に選ばれた。10年には200安打以上のシーズンを10年連続に更新。この記録も破られることがないだろうといわれている。

16年8月には大リーグで日本選手初の3000安打を記録し、最終的には3089安打に。日本のプロ野球オリックスでプレーした9年間で1278安打。日米通算28年間で4367安打の歴史に残る安打数を積み重ねた。